

【静岡市会場】

1．開催日時・会場

- ・ 日時 平成 14 年 11 月 10 日（日）13：30～15：30、晴れ
- ・ 会場 静岡県女性総合センターあざれあ 4階第1研修室

2．出演者構成

- ・ コーディネーター
上野 征洋 （静岡文化芸術大学教授）
- ・ 地域づくり代表者
小野寺郷子 （静岡市在住）
小林 靖彦 （静岡市在住）
佐々木智子 （静岡市在住）
築地 勝美 （静岡市在住）
豊田 幹夫 （清水市在住）
鳥居 久保 （静岡市在住）
守本 尚子 （静岡市在住）
山本 佳昭 （静岡市在住）
- ・ 行政側出演者
元野 一生 （中部地方整備局企画部技術企画官）
井出 正之 （中部運輸局企画振興部交通・観光計画調整官）
岩田 良明 （静岡県土木部建設政策室長）
木村 忠幸 （静岡県都市住宅部都市政策室長）
- ・ 聴講者数
計 68 名（男性 54 名、女性 14 名）
- ・ 会場風景



3. 会議録

司会 ただいまより「まんなかビジョン討論会」を開催します。本日は、多数の方々にご出席いただきありがとうございます。私は、本日の進行役を務めます中部地方整備局の水口と申します。

さて、国土交通省では対話型行政を進めていますが、中部ブロックの地域づくりの基本方針となる「まんなかビジョン」の策定においても、地域の声を積極的に反映していきたいと考えています。この「まんなかビジョン討論会」は、中部4県の計8カ所で開催を予定しており、本日は3カ所目として、静岡市で開催させていただいております。

それでは、ビジョン討論会に先立ち、主催者を代表して中部地方整備局の元野技術企画官よりご挨拶申し上げます。

元野 中部地方整備局技術企画官の元野です。本日は、まんなかビジョン討論会に多数のご出席賜りましてまことにありがとうございます。

本日のコーディネーターは、静岡文化芸術大学教授の上野先生にお願いしております。発言者の方は、静岡市及び清水市の地域づくりでご活躍されている方8名にご参加いただきました。また、行政の出席者として、国土交通省から2名、静岡県から2名、合計4名が参加しております。

今回のビジョンでは、21世紀の地域社会を持続ある、元気のあるものにしていくために、内外の社会環境を十分認識し、地域のポテンシャルを最大限発揮していくことが非常に大切と考えています。そのため、地域全体で共有できる地域づくりの目標、いわゆるビジョンを持つことが非常に大切と考えています。

現在、中部ブロックでは東海4県および名古屋市の地方自治体、地元経済界及び国土交通省が共同して、県境を越えた中部ブロック全体の目指すべき方向を提案する「まんなかビジョン」の策定を進めています。また、国民的議論を深めるために、今年8月に中間取りまとめを公表しました。

本日の「まんなかビジョン討論会」では、地域の皆様と中部の未来について「どのような目標を持って地域づくりを進めていけばいいのか」について議論を深めたいと考えています。皆様から忌憚のないご意見、ご提案を承り、地域全体で共有できるビジョンを作っていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

司会 どうもありがとうございました。これからの進行は、静岡文化芸術大学教授の上野先生にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

上野 上野です。浜松の静岡文化芸術大学の文化政策学部で、専門は社会情報学です。

今日のテーマにP Iというのがあります。P Iは、「広く市民各層の皆さんの意見を伺いつつ政策を作っていこう。」という、国土交通省が5年ほど前から取り組んでいる政策形成のための方策の一つです。これまで、住民と行政の間に少し隔たりがあったり、住民の思いが行政に十分届かないということがよく言われていました。一方行政の側も、一生懸命色々な政策を作って事業を展開するのですが、何か事があるとすぐ国がいけない、県がいけないという話になった。そうしたことを無くすためにも、このP I手法が有効ということで取り組んでいます。今日は、その一つの具体的な形として、発言者の皆さんはもちろん、会場に参加いただいた方々からも発言いただく機会を作りたいと思いますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

それではまず、自己紹介をしていただきたいと思います。

元野 私は名古屋から来ました元野です。中部地方整備局の企画部で地域づくりなどを担当しています。中部地方は、気候的にも、人的にも、産業から見ても、日本を引っ張っている地域だと考えています。日本全体を見たときに、2つのエンジンが足りないと言われています。1つは国際的な競争力、もう1つは国内の健全なマーケットです。それを地域づくりから見れば、まず国際的な競争力の観点では、モノづくり産業を中心とした産業の強化をちゃんとやっていく必要がある。もう1つは、都市の国際化、地域の国際化を進めていくべきだと考えています。さらに、この中部という地域は、関東と関西を結ぶ大動脈の中心であり、日本の動脈の中心です。その動脈について、地震対策も含めて、しっかりやっていくべきだと考えています。

一方、健全な消費マーケットという観点からは、農村や中山間地域の魅力をどうやって高めていくかを考えなくてはならない。さらに、今後の少子高齢化に伴い、高齢者や女性や子供にとって、社会的にバリアフリー化することが必要ではないか。これは単に施設だけではなく、就労就学や地域づくりへの参画を進めていくべきだと考えております。

最後に、中部という地域は、他の地域から見ると非常に羨ましい地域だと思います。それを踏まえて、中部地域のブランドを作れないか。特に、極東地域を意識した上で、中部からブランドを発信できないか。衣食住全部合わせて、地域のブランドを作っていけないかと考えています。

上野 ありがとうございます。

井出 中部運輸局の井出と申します。この地域は、日本で唯一、地震防災対策強化地域に指定されています。おそらく世界にも例がないと思います。いい悪いではなく、現実には地震に対する懸念がある。そういう地域の皆さんが、心配しないで夜寝られるようなまちづくりがハードやソフトの面で進められると良いと思います。

上野 ありがとうございます。

岩田 県の土木部の建設政策室岩田と申します。私は、地域の方々と協働で県土づくりを進めるための、土木部の窓口を担当しています。この協働という取り組みは、地域の人達との対話が足りないという公共事業に対する批判を受けて、計画の段階からたくさんの方の色々な意見をいただきながら進めていくことを目的に3年ほど前から取り組んでいます。

県のホームページにも土木部のホームページを作っています。その中に意見を書き込んでいただけるようになっていきますので、是非そこにご意見をいただければと考えております。

木村 同じく静岡県の木村です。都市政策室でまちづくりに関する仕事をしています。

静岡県は災害が叫ばれておりますので、安全で安心な社会づくりを進めたいと考えております。今日は、まちづくりに携わっている発言者の方々からの率直な意見を期待しております。

山本 静岡県ボランティア協会の山本と申します。ボランティア協会は、ボランティア活動の推進機関です。今日は、障害を持つ人とのつながりの中で思うことを話したいと思います。

私は、障害を持つ人、お年寄りが安心して暮らせる町、生き生きと人間らしく生きていけるまちを作らなければいけないと考えております。また、静岡市の交通政策協議会の市民委員をやっ

ております。障害を持つ人が、安心して乗り降りできる乗り物がもっと増えていく、駅にエレベーターがつく、そういうことが実現していくことが、障害者が生き生きと暮らしていくまちづくりの第一歩になるのではないかと。

守本 静岡市の守本尚子と申します。私は、街がみんなのものになるといいと思います。まちづくりコーディネーターとして、行政の事業と市民活動とのつなぎ役のようなことをしています。また、国土交通省静岡国道工事事務所の「miti 広聴会」では、コーディネーターをしています。

皆さんの意思で、皆さんの街が、主体的に作れるような仕組みづくりが進められたらいいなと思っています。

鳥居 静岡市の鳥居と申します。建築の設計をしています。

建築設計を依頼された時、はじめから地域全体の概念を持っているわけではありません。依頼されて初めて地域を考えるということです。今までは、最初に全体計画があり、だんだん部分に降りていくのが当然とする考え方がありましたが、実はそれは非常に難しい考え方だったと思います。

大きなビジョンが最初にあっても、地域で物事を進める中では、日常的には色々な事が起こってくる。それを一つひとつしらみつぶしに解決していかなければ、世の中の問題は全く解決していかない。大きなビジョンも確かに大切ですが、個々の色々な事件に対して一つひとつそれを解決していけるかどうか。そういうところに今僕らは来ているのではないかと思います。

ですから、地域がその地域の人たちの手の中で動いていけること、決してものを上から見ないということ。そういうふうになればいいかなと思っています。

豊田 清水市の豊田と申します。今は、財団法人清水港湾博物館館長ですが、昭和40年に総合物流会社の鈴与株式会社に入社して以来35年以上、港湾物流を中心とした仕事をしてまいりました。清水港湾博物館は愛称フェルケール博物館といい、ドイツ語の「交通」「交流」を意味します。

私たちのフェルケール博物館が、どのような役割を果たすと良いのか、いつも考えております。清水は県内では最も港と結びついた地域ですので、地域の一般住民の方とか児童生徒さんが、もっと身近で港を知っていただくためにはどうしたらいいのか。港を知っていただくことに私の役目があると思っています。

築地 静岡市玉川の築地と申します。会員750名の安倍川フォーラムの代表と、静岡市環境会議の運営委員長をしています。日本一きれいな安倍川を次の世代に残すために、活動をしています。今まで、学校教育また社会の中で、川は危ない、川にはなるべく近づかないようにしようという風潮でしたが、そういう時代はもう終わったと思います。これからは、子供たちが川に戻り、色々な遊び、楽しさ、また川の恐さを知ってもらい、次の世代に残したい。安倍川は、静岡市の「母なる川」だと思っています。そういう母なる川をきれいにしていくには、静岡市民、住民が一致団結してきれいにしていく必要があります。昔は「川ガキ」というのがどこにもありました。子供が川で遊んでいるとき、大人が、悪さをしていないか、危なくないかと、ずっと川を見ていたと思います。そういう中で、地域全体が川に興味を持ってもらえる。そういう川に安倍川がなるといいなと思っています。

佐々木 静岡市の佐々木智子と申します。静岡市都市計画審議会の委員をしているため、あちこちの視察に出かける機会があります。それで、他地域の良さを知るだけでなく、静岡市の良さも再発見しますが、静岡の特色をもっと見つけ、また、特色を作って行けたらと思います。

小林 静岡市の小林靖彦と申します。社団法人静岡青年会議所でまちづくり、人づくりの活動をしております。また、建設業協会の青年部にも所属しています。

静岡市は、来年4月に清水市と合併して新静岡市となりますので、是非静岡県の中心となるよう「オンリーワンのまちづくり」ができればと思っております。今は、色々な規制等のために、メリハリのあるまちづくりが進めづらいですが、これからは多数の人を対象とせず、特定のライフスタイルに対応できるまちづくりを行政と住民が進めていく必要があると思います。

小野寺 静岡市の小野寺郷子と申します。愛知県出身ですが、以前アメリカに住んでおり、10年ほど前に静岡に来ました。静岡市消費者協会が主催する生活フェアの役員を務めていますが、主婦ですので、生活者の視点で発言できると思います。また、市民活動懇話会にも出席しております。

今まで消費者は、行政や企業にニーズを言うだけだったのですが、今は消費者が責任を持って選ばなければいけないし、色々な意味で自己責任を持ってしなくてはならない時代になりました。協会では、昨年「マイバッグフォーラム」を静岡で初めて行ないました。九州から青森まで、特に招集もかけずに300名くらいの方が集まりました。初めて静岡市に来られる方も多く、静岡の印象は「とてもいい町」だけれども、通り過ぎる町というものでした。これからは、人が通り過ぎる町ではなく集う町になるといいなと考えています。

上野 ありがとうございました。それでは、「私が考える地域」についてご意見を伺います。

小野寺 静岡は、気候的にも地理的にもとてもいい場所です。これを最大限に生かさない手はないと思っています。静岡に来て一番驚いたことは、とてもイベントが上手で、自分もそこに参加して街の人になれたような気持ちがとてもしました。他の地域も色々なお祭りがあります。けれど静岡は、小さなことから大きなことまで色々新しいことにどんどん挑戦しています。お店が、ぶっきらぼうだったり殿様商売みたいなことを言われる所もありますが、本当はとてもウエルカムで、お持てなしの心を持った地域だと感じています。

イベントは上手にできるのに単発で終わり、その継続性がない。お茶とミカンだけでなく、自然にも恵まれているが、そのPRが下手です。それから、環境の面でもきれいな安倍川を上手に活かしてリンクさせるなど、そういうことで手を取りあえたらと思います。

私は、協働はとてもいい言葉だと思っており、本当の協働という言葉が根づくといいと日頃思っています。協働、労働の働ですよね。労働という言葉は、とても大事な言葉だと思います。労働は苦しいことがあるけれども、仕事と違い、そこから生み出されるもの、自分が作り出す喜びが必ずそこに備わっているという部分がある。ともに働く、そういうことがもっと上手に活かせるようなことを市民側からも提案でき、本当のよさを出し合った協働が作れるようなことを提案し作っていったら、人が集う街になってくれるといいと思います。

静岡空港は、個人的にはいらないと思っています。しかし、もしできるのであれば中部国際空港と静岡空港、両方の空港とか交通機関が活かせるような地域づくりをしてほしいと思います。

静岡には、大動脈があり、東海地震の地区です。静岡の人は、災害にあったときのことをいつも考えており、被災者の気持ち分かる人たちがたくさんいると思うので、他の地域との連携など、安全、安心の配慮を他地域の人たちと一緒に考えていけるようなまちづくりを考えたい。

上野 ありがとうございます。住民のアクセサビリティ、色々な移動、様々な行動に便利な方向で地域づくりを考えてほしいという意味だと思います。

小林 「まんなかビジョン」の中間取りまとめでは、ハードに関してはかなり具体的に書かれていたので、今回はソフト面で提案があります。

まちづくりの活動の中で、地域に関する問題点や改善案、ユニークな考えを持っている人は多くいらっしゃると思います。しかし、そういう方たちが提言したり、提案する一元的な窓口がないのが現状だと思います。まちづくりは、色々な分野が入っており、例えば学校とか文化施設、福祉などをまとめて処理できる部門がないことが、まちづくりをうまくできない原因の一つではないかと思います。これは行政的な部分で難しいところもあるが、そこを一元的に受け止められる、形式ではない窓口、行政部門が必要です。市、県、国も一つの窓口にならなければいけないと思う。

諸団体も個々には素晴らしい活動をしているが、そこもまとめて一つの大きな枠組みができれば、もっと理想に近いまちづくりができ、また、その中で分科会を開いていけば特徴的なまちづくりができると思う。まちづくりには、法律や予算など色々絡んでくるので、まちづくりの枠組みとして一つ何かあれば、方向性が見えてくるといつも思っています。ソフト面で、そういった働きかけとか作り込みが必要ではないかと思います。

上野 ありがとうございます。まちづくりという大きな枠組みの中で、例えば学校づくり、文化づくり、人づくりのようなものについて、一元的に住民の意見を聞く仕組みづくりが必要ということですね。行政は形式的だというご意見がありましたが、県には意見をまとめて聞く窓口はないのですか。

岩田 意見については、どこでも受け付けているというのが現状だと思います。受け付けたものが国や県、市にうまく伝わるかどうかということだと思います。窓口が一つであれば一番理想的だとは思いますが、組織上一つの窓口を作るのは難しいと思います。行政として、地域の人たちと一体になれるような仕組みづくりを工夫しなければいけないと考えております。

上野 ありがとうございます。

佐々木 計画は色々ありますが、難しいことは行政に任せればよいというのが実は少し前までの私の考えでした。もっと誘致すればいいのと思うことが幾つかあったときに、自分ではどうすべきかと、まず自分で考えなければいけないと思うようになりました。ヒューマンカレッジに通ったことがきっかけで、ハコ物や道ができるだけでは仕方がなく、そこから文化が生まれていかなければ結局それは定着しないのではないかと思うようになりました。

静岡には、11月の初めに大道芸という大きなイベントがあります。私は、5年ほど前からボランティアとして参加しています。大道芸は、路上でやるパフォーマンスですので、それだけを楽しめば良いと思う方もあるかもしれませんが、イベントだけがすべてではなく、そこから何か

生まれてようやく文化が生まれると思っています。大道芸という大きなイベントも11年目を迎えて、いよいよ文化として根付きだしたのではないかとと思っています。

そういった一つのイベントを取っても、これはある意味では地域づくり、まちづくりという観点から良い方向が出ているのではないかとと思います。難しいことばかりでなくても、地域づくりというのはそういったところから出ているような気がします。

上野 ありがとうございました。

築地 安倍川は、1行政区内を流れる河川で、静岡市で始まり河口も静岡市です。だから、どういうイベントでも1行政区の中で連絡し合っているのではないかと考えております。

安倍川クリーン大作戦を行っています、毎年毎年ゴミが増えていく。クリーン作戦をやるたびに増えていくので、川に来る人たちが落としていくゴミを地域の住民が片づけるだけでは、物事は済まないと考え始めました。本当にみんなが川に親しんでもらうためには、地域住民と来訪者が、どこに接点を持つと良いかという、本当に難しい問題になっていると思います。

自分たちは今、クリーン作戦ではなく、来たお客さんにゴミ袋を配っています。それから、広報車を使って、お盆の一番人が多いときに、4日間ずっと広報をしています。

地域づくりには、静岡市全体のマナーが本当に大事な部分を占めていると思います。行政も地域も一体となって、どうしたらゴミが少なくなるか、どうしたらみんなが飲んでいる水がいつまでもきれいでいられるか、こういうことをもう少し考えるようになれば、安倍川を中心としたい地域づくりができるのではないかと考えております。みんなが飲んでいる安倍川の水が、いつまでもきれいでいられるような、行政と一体となった、地域と結びついた地域づくりができたら素晴らしいと考えております。

上野 ありがとうございました。

豊田 私は、清水の港を中心とした地域づくりを考えていきたいと思っています。また、清水港湾博物館を活用して欲しいと思います。学校の週休2日制を絶好の機会と捉え、もっと課外授業の受け皿になりたいと思います。小学校では、港のことも教科で取り上げているので、勉強するタネは色々ありますし、友の会で体験学習も行っています。ところが学校側との歯車がうまく噛み合わず、あまり活用されていません。それから、地域の文化の高揚と発掘を目指して企画展事業も年10回くらい行っており、年1回は清水市教育委員会との共催事業もやっていますが、静岡市との合併後は共催事業が従来通りできるのか、心配しております。

昔の港は市街地に近いところにありましたが、今の港は市街地から離れており、どうしても一般の方とは疎遠になります。また、港の機能も人が集まる所と、港本来の機能に二分化されています。私たちのフェルケール博物館は、人の集まる所にありますので、もっと市民の皆さんに港のことを理解してもらい、児童生徒に港について勉強する機会を地域ぐるみで作っていききたいと思います。

上野 ありがとうございました。博物館や港湾施設は、子供を育てる場でもあるということですね。

鳥居 20 世紀は、生産の世紀でした。生産のための施設や流通のための幹線道路などの整備は、すべて終わったと思います。そして、生活の豊かさは物の豊かさであると思って過ごしてきたと思います。ところが今、社会的な課題としての「物の豊かさは実は生活の豊かさではなかった」という、ひとつの結論めいたものが出てきていると思います。我々が本当に求めていたのは「心の豊かさ」ではなかったのか。

それを実現するために、東海 4 県、三重、愛知、静岡、岐阜に渡る文化システムを作りたいと思っています。これは、広い裾野を持つピラミッド型の芸術文化の育成システムです。そして、音楽や演劇のサークルが、発表の場として利用できる 200 人くらいのホールがある公民館などの施設を作ると良いと思います。そのためには、まず 4 県に渡る広域な文化振興財団みたいなものを作るべきだと思う。そういうものがまずあって、芸術や演劇などを育むようなソフトを作っていく。その文化振興財団は、市民の演劇、音楽もフォローするが、トップレベルの演劇や音楽のアーティストも呼ぶ。つまりトップから裾野に到るまで、非常に大きな三角形・ピラミッドを育てるようなシステムを作ったらどうか。そういう 4 県に渡る大きなピラミッドを作り、それが世界に発信していくようなシステムになればいいのではないかと思います。

上野 ありがとうございます。文化振興の意味がよくわかりました。

守本 私が考える地域というのは、究極にはみんながハッピーで暮らせる町だと思います。一人ひとりが生活している実感というものが、きちんと手応えとして感じられる町。そういう町であつたらいいと思います。私は、「生活」についてとても興味があり勉強してきました。「生活」をひも解いていくと、小さなことが非常に大きな分野にまたがっていて、それぞれがすごく深くつながっている。そのつながりが見えたときに非常に手応えを感じる、実感を感じるという気がします。一つの出来事が、その突破口を開くという感じがして、小さなことからひもといっていくと大きなことが見えてくる。そういうつながりが見える街がいいと思います。

色々な仕組みが変わる中で、なるべく小さくまとまっていって、なるべく大きく広がっていけるような、そういう組織や社会になっていけば、手応えを感じつつ世の中の一員として広くつながっていけるハッピーな生活ができるのではないかと思います。

例えば、以前私は子育て中のお母さんたちと一緒に、「子育てに優しいまちづくり大賞」という企画のコーディネートをしたことがあります。そのときに、色々な施設やサービスが、どれだけ子育て中の親に優しいかということで評価しようとしたのですが、一番話し合ったことは「どこがいいか」ではなく、最終的には子育てに優しいまちって何だろうというところに思いがいたる。そういう素朴な疑問が、街を変えていく一つの大きなエネルギーのきっかけになると思うので、そういった疑問がどこかへつながっていけるような、そういう仕組みがあつたらいいなと思います。

市民参加で色々意見を聞きたいという機会はとても多くなりました。そういう場面に携わった時に、出した意見がどこに行くんだろうということが、いつも気になります。そこにやっぱり透明性が必要。スケルトンなプロセスについて、すごく気になっていくんではないかと思っています。

上野 具体的な指摘をありがとうございました。

元野 各県でこうした討論会を開いております。ビジョン討論会でいただいた発言をできるだけ反映した形でビジョンをまとめていこうと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

上野 ありがとうございました。

山本 介護保険制度とか障害者の支援費の制度といったものが始まり、制度はどんどん進んでいこうとしています。少子高齢社会などと言っていますが、そういうものとまちづくり、都市計画とは別のところで動いているのではないかと、いつも感じています。福祉と都市計画がうまく合わさっていくことが必要だと思います。

福祉というのは幸せに生きるという意味があると思いますが、今は、ひどい言い方をすればとりあえず生きるための最低手段を保障しますよというところに来ているような気がします。そこからもう一步上がって、生き生きと生活する、仕事ができることとか、今日のようにお天気の良い日曜日は呉服町に出て買物をしてみたいとか、そういうことを思っただけで出かけられるような街が必要なのではないか。それは福祉ではなかなかカバーできない部分だと思いますが、そういうことが障害を持つ方とつき合っている中でできていけば理想ではないかと思っています。

また、ベビーカーの視点と車椅子の視点は似たところがすごくあると思います。車椅子のためにあるエレベーターは、ベビーカーでも利用できる、そういうシステムだと思います。ノンステップバスは、車椅子の人には運転手さん気をつけてくれます。だけど、先日乗ったバスでは、ベビーカーの人が大変な思いをしながら乗っていました。それを見て、車椅子の人の視点とベビーカーの人の視点を同じように見なくてはいけないのではないかと思います。

最後に、静岡という街、あるいは東海4県といわれる地域が、どう頑張っても東京や大阪になれるわけではないので、ナンバーワンになることは難しいと思うし、やるべきではないと思っています。むしろ、これがあるから静岡なんだ、これがあるから東海4県なんだというオンリーワンをもっと目指していけたら良いのではないかと思います。

上野 ありがとうございました。それぞれの皆さんから、「私が考える地域」というテーマでご提案をいただきました。ここで、国土交通省で考えている東海4県の新しい姿、そして静岡にどういう関わりがあるのかということをよくご理解いただくために概略の説明をしていただきます。それから発言者の皆さんだけではなく、今日会場にご参加いただいた皆さんからアンケートで色々なご意見やご提案をいただき、それをもとに後半の議論を進めたいと思います。

司会 お手元のパンフレットをご覧ください。まず表紙には、日の丸弁当の絵を描いております。また、これに日本地図を重ねて、日本の真ん中に位置する中部地域を日の丸弁当の梅干になぞらえた表紙にしております。現時点では日の丸弁当ですが、今後皆様のご意見を日の丸弁当のメインディッシュにした、おいしい弁当をみんなで明るく食べていけるような地域にしたいと思っています。

また、中部地域が日本の真ん中にあることは、この地域の発展にとって非常に有利である一方、日本の中で果たす役割もまた非常に大きいと考えております。「日本の国内だけではなく、世界に誇れるような中部を創造していく」ということをメインテーマにしております。

続いて「まんなかビジョン」では、「中部ブロック全体が目指すべき将来の目標」を提案しようと考えています。今回のパンフレットは、中間取りまとめとして8月に国、地方公共団体、地元

経済団体などの関係機関が協力して作ったものです。今後は、討論会の場でお伺いしたご意見を踏まえて、来年の春頃にまんなかビジョンとして正式に出したいと考えております。

ビジョンでは、大きく7つの目標を掲げています。また、「アウトカム目標」というものを示しています。従来、行政サイドでは、例えば道路を何キロ作るといようなアウトプットの目標をご提示することが多かったのですが、今後はそれを作ったことによって地域がどのようによくなるのかということを出カム目標として設定し、ビジョンにしたいと考えております。また、ビジョンが達成されたかをチェックする指標として「アウトカム指標」を示しました。最後は、ビジョンを達成するための今後の進め方とか方針を示しております。

それでは、7つの目標について簡単にご説明します。1は、「モノづくりなど産業の国際競争力の強化」です。この目標は、皆様の生活自体には直接結びつきにくいかもしれませんが、日々の生活を支える意味でもモノづくりの国際競争力が必要になってきます。2は、「世界都市を目指す名古屋の魅力向上と拠点都市のアップグレード」です。静岡市と清水の合併が予定され、今後ますます拠点都市としての重要性が増してくると思います。3は、「東海環状都市圏、環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大」です。地域の活性化を生み出すためには、人の交流というものが大事でベースになります。4は、「日本の真ん中である優位性を生かし、国土の東西・南北軸の再生や交流拠点整備による国内外交流の推進」です。中部地域が真ん中であることを活かして、人の交流をますます活発にしようということです。5は、「中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを活かした地域づくり・観光振興」です。中部地域は、三大都市圏の中でも自然環境が多く残っており、こうした地域の財産である自然環境を保全するとともに、より活かしていくことを地域づくりとして考えていきたい。6は、「誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」です。今後は、少子高齢化が着実に進みますので、地域の人々がみんなて暮らしやすい地域を作ること目標に掲げています。7は、「東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり」です。中部地域は、東海地震をはじめとした災害の恐れがあります。現時点でも色々地域で取り組みがなされていますが、そうした取り組みをより一層強化していくことを大きな目標に掲げております。「まんなかビジョン」の説明は以上です。

上野 ありがとうございます。「まんなかビジョンが目指す7つの大きな目標」についてご説明をいただきました。

司会 先ほど説明しました、7つの大きな目標の番号のうち、静岡県東部・中部にとって大事なものと中部地域全体にとって大事なものを、それぞれアンケート用紙に書いて下さい。

上野 それでは、後ほど集計してご報告いたします。今日ご出席の皆さんから、まんなかビジョンに対する、こうあるべきだという期待とか注文を含めてご意見を伺いたいと思います。

山本 私は、「誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」に期待をしたいと思います。アウトカム目標にユニバーサルデザインという言葉が出ています。バリアフリーもそろそろ第2ラウンドに入るのではないかと考えており、私はそれがユニバーサルデザインだと思っています。ユニバーサルデザインを進めるにあたり、私が期待したいのは、色々な人の声を集めるということです。PIがその場なのでしょうが、この場だけではなくもっと色々な所で進めてほしいと思います。私が交通政策協議会の委員でなければ、この会があることも

知らなかったのではないかと思います。私以外にも、たくさんの人が一生懸命地域づくりを行っていると思います。そういう人たちにもうまぐPRしてほしいと思います。

地域づくりやまちづくりは、短いスパンでできるものではないと思います。すごく長いスパンでやるものと急いでやらなければいけないもの、例えば東海地震の対策は本当にすぐやらなければいけないと思いますが、そういうテーマで分けていただいて、ゆっくりできるものはみんなのコンセンサスを得ながら動かしていくことがすごく大事ではないかと思います。

上野 ありがとうございます。

守本 まんなかビジョンを見て一番最初に目に付いたのは、「策定の流れ」です。これまで色々な経過を経てここまでまとめられたことはよく分かるのですが、その過程で、その局面局面でどこが議論になって、どのような意見がそこで出たのか。それによってこの計画はどこが変わっていったのかという、その変化の流れを是非知らせて欲しいと思います。それを読んで初めて、理解をするところと、納得するところがあると思います。その計画が、納得ができるプランであるためには、そのプロセスにおいてどのような変化があったのか、ということが分かる必要があると思いました。スイスの話ですが、市民は直接民主主義の結果に幸福感を覚えるのではなく、プロセスへ参加することに満足感を得ている、幸福感を感じているというような分析がされています。こうした討論会は、非常に貴重な機会だと思いますが、色々な立場の方々のご発言があると思いますので、是非その内容が分かれば良いなと思いました。

それから、中部地整のホームページを見ました。たくさん計画がありますが、どれも並列に書いてあるので、計画同士のつながりが全然理解ができませんでした。そういった計画全体の流れの相関図みたいなものがあると、このビジョンがどういう意味を持っているのかというところがわかりやすくなると思いました。

内容については、中部という枠で捉えるのではなく、縁というかニッチというかネットワークというか、縁ということで考えたら違う見方ができるという気がします。

上野 計画のつながりや意見のプロセスについてのご意見をいただきました。

元野 今ご指摘のあった議論のプロセスと計画への反映については、できるだけわかりやすく、透明性を高めていく努力をしていきたいと思います。また今、大きな流れとして公共事業の長期計画を一本化しようとしており、経済財政諮問会議で扇大臣がイニシアチブという形で表明しています。ただ、個別の道路や河川の計画は、それぞれの分野でしっかりやっていきます。

私どもとしては、まんなかビジョンのような計画が、多分野に渡る計画を横断的にまとめたものとして認知できるのではないかと考えているところです。

上野 ありがとうございます。

鳥居 先ほどの説明の中で、アウトカムは何をいくつ作るのかではなく、果たして成果があったのかどうかを問題とする概念であるということなので、非常にいいなと思いました。例えば道路公団の問題などの反省が、即こういうところに反映されているということでは、ソフトとしてはいいのではないかと思います。

地域づくりについては、「中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを生かした地域づくり、観光振興」の分野に厚みを持たせる形で「まんなかビジョン」を是非進めてもらいたいと思います。何故なら、インフラはすでに結構整備されてしまっており、作る所がなくなっている。従って、できているインフラを新しいソフトで使いこなす、つまり、古いものを新しく使うという視点がどうしても必要になってくると思います。今ある環境、すでに作ってしまったものを活かすようなシステムづくり、ソフトづくりに力を入れるべきではないかと思います。例えば、色々な人たちが文化的なサークルに参加できるようになるためには、その地域間を人々が移動する必要があります。その際に、既存の交通システムだけでは立ち行かないところが出てくる。地域循環型のバスシステム、いわゆるムーバスみたいなもの、これは既存のインフラを使いながら、新しいシステムでバスを回すということ。そういうものを是非作っていきながら、芸術文化にもうすこし厚みを持たせるような地域づくりをしていてもらいたい。そういう形でこのまんなかビジョンが使えるのではないかと思います。

上野 ありがとうございます。

豊田 私は、この「まんなかビジョン」は、非常にハード面に偏っているように思われますが、これは主催者の性格上やむをえないでしょう。人々の生活を豊かにする施設は、まだまだ全国的に不足していますが、国の限られた予算を有効に使って人々の生活を向上するには、もっと地域の特徴を生かした教育、文化活動面の支援もお願いしたいものです。例えば、港の博物館では、友の会の皆さんに、子ども体験学習を学校週休2日制の土曜日にボランティアで活動していただいています。土曜日は行政の協力を受けにくい点が挙げられます。何のための学校週休2日制なのか。土曜日を有効に活用するためには、我々友の会のボランティアだけでは限界がありますので、今後行政は我々と一緒になって、子供の課外授業の受け皿となるように協力していただくことができないかと思います。インフラもかなり整備されつつある中、現在出来たハードとこれから作るハードを有効に活用するようなソフト面がさらに進んで、もっとより良いサービスが一般住民に提供できるような態勢に是非なっていかないと、つくづく感じております。

上野 ありがとうございます。アンケートの集計グラフがございますのでご覧下さい。静岡県の東部・中部にとって大事な政策目標は、次のような結果になりました。一番多いのは 1 番目、「東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり」です。全体で約 70 人のうち、1 番目が 21 票ありました。次が 2 番目の、「国土の東西・南北軸の再生や交流拠点整備による国内外の交流の推進」で 17 票。3 番目が 3 番目の「誰もが生き生きと暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」で 16 票です。次が 4 番目で「中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを生かした地域づくり」です。5 番目から 10 番目はほとんど無く、11 番目、12 番目にそれぞれかなりの票が集中しました。

一方、中部圏全体の方はだいたい票数が割れています。一番多いのが、5 番目と 6 番目で同数の 15 票です。5 番目の「国内外交流の推進」と 6 番目の「災害に強い地域づくり」の 2 つが高いランクでした。その次が 3 番目の「誰もが生き生きと暮らせる豊かでゆったりとした生活環境」です。静岡県東部・中部のアンケートでは全く票の入らなかった 7 番ですが、中部地域全体では 4 票入っており、やはり名古屋は中心なのかなと思われます。7 番目の「モノづくりなど産業の国際競争力」は、静岡県東部の方では 1 票しかありませんでしたが、中部圏全体では 9 票と急上昇

しております。このあたりが特徴的です。 番目の「東海環状都市圏・環伊勢湾などのいわゆるインフラ整備で交流をやりよう」というテーマも、静岡県ではあまり人気がなかったのですが、中部圏全体としては10票と、なかなかの票が集まっています。

以上が会場の皆さんからのご意見です。この後、皆さんの意見を参考にしながら討論を続けます。

築地 私は、 、 、 番目は、個人で自分自身が参加したいと思えば参加できる項目だと思います。東海地震では、自主防とか水防団、色々な意味でその必要性を感じますが、その中で本当に地域づくりに自分が個人として参加できる要素を持つのが 番目、 番目、 番目のような気がします。

中でも、自然環境を考えるうえで、歴史とか文化がすごく大事だと思います。今、小学校の総合学習の中で自然や歴史や文化を学ぼうと思っても、勉強する所がありません。自分たちは、水辺の学校を作ることによって、子供たちが総合学習の中で自然環境や歴史や文化を学んでいけるのではないかと、また、防災の面でも、何をしていかなければならないかを学んでいけたらと思っています。

各個人が自由に参加できるような、参加するという気持ちがあれば誰でもが参加できるような地域づくりにしてもらいたいと思っています。

上野 ありがとうございます。誰もが参加できる。とてもいい提案ですね。

佐々木 インターネットのホームページに、中部の市長が考える地域づくりの基本方向というものがあります。都市部と農山漁村部に大きく分かれており、その中で都市部では「住民参加の地域づくり」を大切にしたいというのが多いようです。農山漁村は「自然環境との共生」を第一にしたいということが出ていました。

都市部では「住民参加型の地域づくり」がまず第1、次が「自然環境との共生」でしたが、農山漁村地域は逆でした。即ち、地域によってまず求めたいものが実は違うということが、ここに現れていると思いました。私は静岡に住んでいるので静岡のことばかり気になりますが、山奥に引っ越したら全然違うものをほしがるのだということがわかりました。これだけ大きな4県1市の計画になると、細かいところでは違うが大きな部分から見るとあれもこれも欲しくなるというのが正直なところです。

先日、視察で仙台に行って参りました。参加メンバーで40年前に東北大学の学生だった方が仰るには、当時の仙台は静岡とほとんど変わらない状況だったというお話でした。その頃は、静岡の方が逆に栄えていたようなお話でした。すごくビックリしました。その頃の仙台市長さんが、強い信念を持って色々と区画整理をされた結果が今、こんなにも大きく変わったということです。大きなビジョンで、長いスパンで都市計画を考えていかなければ、その場その場でやっていったのではダメなのだと感じました。

上野 ありがとうございます。仰るとおりで、まちづくりは時間がかかります。この「まんなかビジョン」も最終的には20年後くらいを目指しているということです。

小林 中部ブロック圏内の将来の目標は、マクロとミクロの調和でうまく作っていく必要がある

と思います。「大量生産大量消費の時代」から、「生きる豊かさ、心の豊かさを求める時代」。これはハード面、ソフト面でもそういう時代になってきたと思います。

私は個人的に、EU社会が方向性としてはいいのではないかと考えています。この際、思い切りヨーロッパ型の社会を真似してしまうのが、方向性としてひとつあるのではないかと考えています。建物、文化施設、道路、インフラ、エネルギー問題、環境、モラル、こちら辺は見習うべきことが多いと思います。ですから、模範となる部分の基本を押さえながら、「日本の文化と和のすばらしさ」を取り入れながら、地域の要望を取り入れてまちづくりを進めれば、目指すべきものが具体的にあるのでわかりやすく目的に向かって進んでいけるのではないかと考えています。

先ほどから、新しいものはもう作る必要はないのではないかと意見が多く出ていますが、ランニングコストとか効率の面から必ずしもそれがプラスになる場合ばかりではなく、本当に必要なものは新しく積極的に作っていく必要があると思います。具体的に2つあげますと、1つは中部ブロック独自の制度・体制を作り、独立した予算を持った上で大型の専門的な文化施設、高度教育施設、高度医療施設をバランスよく整備し、中部ブロックの中で基本的な生活のすべてがカバーできるようにすると良いと思う。それを行政がうまくPRして、必ずしも東京へ行く必要がないという中部ブロックの生活圏を作ったうえで、私たちが地域を育てていく必要があるのではないかと考えています。

もう1つ大事なことは、やはり基本的にはインフラ整備がまだまだ必要だと思います。陸海空のインフラ、特に第2東名に関しては、災害に強い高速道路という意味で作る必要があるのではないかと。それから、中部の各港の役割分担を明確にし、総合的にどのように運用していくかを方向づけして中部圏特有の海上交通網を作ること。そして、中部国際空港を中心に、静岡空港も独立して運営するのではなく、全体を見て個々の特徴、役割を持ちながら全体的に中部圏としてインフラ整備を方向づけていくことが必要だと思います。

基本的には、中部ブロックを単位に生活圏のインフラ整備を「ヨーロッパ型社会」を目指しながら進めることが良いと思います。

上野 大変具体的な力強いアイデアをありがとうございました。

小野寺 私は討論会に出席することになって、中部地方整備局のホームページを見ました。「まんなかビジョン」に関しては、基本的な資料がすべて出ており、知りたいと思う情報も出ていました。中部が日本の中でどんな役割を果たしているとか、観光地として魅力に乏しい点はどこかとか、中部が日本の貿易黒字を支えているということなど、それぞれのポイントがこのビジョンに活かされていました。今後、20年もかけて進める計画の報告書が、公聴会なども開きながら透明性高くきちんとプロセスが分かるように作られることもよく分かりました。しかし、「まんなかビジョン」について聞いてから、色々な人に言いましたが知っている人が一人もいませんでした。本当に一部の人しか知らないと思います。

今、グリーンコンシューマー活動をしており、グリーンコンシューマーガイドの静岡版を作ったりもしています。地産地消、まずは安全・安心、リーズナブルを念頭に進めています。どうしてもリーズナブルというのがないと物が買えませんので、国のハード面の事業でもリーズナブルであってほしい。ニューパブリックマネジメントの手法を取り入れてほしい部分もたくさんあります。

こういう場所も今までなかった。やっと市民参加、PIなどに取り組んでいただいたが、これ

がもっと広がる工夫を望みたいと思います。静岡市の「メイドイン静岡材利用促進協議会」に参加しているが、森林組合と静岡市の消費者の気持ちはとても離れているのが実状です。それぞれのニーズも違っている。小さな地域でもそうなので、地域を広げればもっと色々な問題が起こって来る。生活者が地域づくりに関わる際には、広く俯瞰する気持ち、日本国民であるとか地球人であるというようなこと考えなければいけない時代になっている。そういう意味から、協働で作る社会を目指していける、ここから発信できるということはすばらしいことだと思います。

それから、ITによる情報提供を前面に出すのではなく、他の情報源から情報を入手している方もいらっしゃるの、そういう方たちへのフォローアップもしてほしいと思います。また、静岡の中部と西部しか討論会を開催せず、東部で開催しないのは片手落ちだと思います。

上野 どうもありがとうございました。

聴講者 この討論会に、お隣の神奈川県と山梨県が参加していないのは、少しおかしいと思います。それから、静岡はとても豊かな所で財産があるという話ですが、逆にそのことがネックになっていると思う。ネガティブなことが、これから発展していくためのパワーになるのではないかな。先ほど、40年前の仙台のお話がありました。豊かなことではなく、豊かでないことが何かのバネになっていくのではないかな。そのためには、東海地震のような負の要素が、住みよくするためのパワーになるのではないかなと思います。

上野 ありがとうございました。神奈川、山梨が含まれていないのは、国土交通省のナワバリという問題だと思いますが、何かコメントがあればお願いします。

井出 決してナワバリとかではありませんが、皆さんからはだからこそ行政区画を取り払う必要があるという論議もありました。ただ、国という単位があり、国には各行政の分野があるため、視点の違いはどうしてもあると思います。

国土交通省も各区域分担があります。テリトリーではなく、権限でも何でもなく、責務としてそこを担務しているということです。そういう中で、中部は「まんなかビジョン」という、日本の真ん中ということに着目して動いています。そして、市町村や県の視線、あるいは中部全体の視線、また国土交通省の立場や財務省の立場など、地域に関わる様々な皆さんの意見を聞いて自分たちの行政の中に生かしていこうと思っています。しかし、「私が出した意見はどうなったか教える。」と言われると、これはすごく難しい。お伺いした意見がどこに反映されているかは、結果を見ていただくしかなくて、結果として「私が言ったのは反映されてないじゃないか。」となったときに、その意見を出した人が100人いた。そこがすごく難しいのです。ですから、皆さんが執念を持って追及すべきなのです。行政はどんどん変わってきており、情報公開法の対象にもなっています。また、説明責任ということが問われていますので、もっと気楽な気持ちで追及していただいた方がよろしいのかなと思います。

上野 ありがとうございました。それともう1点、「静岡は豊かでのんびり」がかえって危ないのではないかというご指摘がありましたが、それについてご意見はありますか。

豊田 静岡県は工業出荷額で見ても東北6県に匹敵し、経済面でも豊かで暮らしやすい県だと言

われますが、県立の人文系（歴史、民族）博物館がありません。全国でも静岡のみと知ると、静岡県をただ豊かだ豊かだとは言えないのではないのでしょうか。

上野 他にご発言はありませんか。

木村 豊かさの定義は、かなり難しいと思います。何を捉えて豊かと言うのか。九州の湯布院のホスピタリティについて見る機会がありました。夜遅く着いて、旅館を探していたら工事現場の監督の方が寄ってきて、こちらの様子を察して場所を教えてくれるといったことがありました。

また、旅館の料理も、例えば伊豆だと刺身とか焼き物とか単一的な料理が多いのですが、だいぶ手の込んだ、かなり細かい料理が出て来ました。聞いたら、旅館の若旦那さんたちが「今回はこういう料理を作ったよ。」とみんなが持ち寄って、湯布院全体の料理のグレードを上げているということでした。静岡県は今まで、個々の店が自分の店だけを良くしようとしていたのではないかと。これからは、そういった連携を大事にしなければならない時期に来ているのではないかと。豊かさを求めるというか、静岡県の良さをもう少ししっかり見つめていく必要があるではないかと感じました。

上野 ありがとうございます。米山さんからのご指摘は、今日の議論に対していい刺激を与えていただいたと思いますので、今後また行政のみならずみんなで考えていくべきではないかと思えます。

私が、ちょっと感想を述べさせていただいて、まとめの代わりにさせていただきます。

今日の皆さん全ての意見に共通しているのは、「人づくり」ということだと気がつきました。博物館の教育の場への活用、障害者の方との共生の問題、弱者の気持ちができるようなまちづくり、これらはみな、人の心の問題、あるいは人をどうやって作っていくかということだと思います。小学生から大人まで色々ありますが、生涯学習まで含めれば人づくりの問題というのが、結局まちづくりの根幹にあるということが一つの感想としてございました。

それから、文化の問題、福祉の問題、生活環境の問題について皆さんからご指摘がありました。教育とか子育てとか人づくりの問題があって、それが文化という形で出てくる、あるいは福祉という形で出てくる。それから、生活環境を守るという形でまちづくりを考えていこうというご意見があったことは、とてもよかったと思います。

「パブリックインボルブメント」という言葉の意味について、本来パブリックというのは「人々」という意味です。パブリックを「公」と訳すからよく間違えますが、パブリックインボルブメントというのは市民巻き込み型というか、人々の意見を大事にしながら政策を作っていく、行政と人々が同じ目線で語り合おうということが前提になっている。昔は住民の意見を聞くといっても、聞いた時には既に政策が決まっている。何故もっと早く教えないのかといったもめ事が結構あった。ここ10年くらいでだいぶ変わり、人々の意見を聞きながら政策を作ろうという一つの典型がPIです。先ほどのニューパブリックマネジメントは、どちらかというと合理化の手法というか、人々が納得するような合理的な手法を取ろうという政策の作り方です。

そうした観点から、目線の高さを同じにして語り合うことが今後の政策のあり方、あるいは住民も行政を問いたただすのではなく、自分たちの考えを政策に活かすきっかけとして本討論会を位置づけたいし、この様な会が必要だと思いました。

「人づくり」というと、国土交通省ではなく文部科学省の仕事になってしまいますが、まちづ

くり、地域づくりの根幹には人があるということが、今日いただいた共通のご意見だったと思います。安倍川の水も結局、人で守っていけるわけですね。ですから、そういった根幹を見据えながら、私たちの暮らしはどういう構造にあるのか、それを考えていく土俵が今日は持てたということで、司会役としてはほっといたしております。

問題は始まったばかりですから、これから大いにみんなで声を出して、我々の声がどんなふうに回っていくのか、今後を見守りながらみんなで考えようということをまとめの代わりにしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

司会 上野先生どうもありがとうございました。それでは、ビジョン討論会の閉会の挨拶を主催者を代表して中部運輸局の井出交通調整官より申し上げます。

井出 長い時間に渡り活発なご議論をいただきありがとうございました。発言者の方々には、まだ言い足りない、もっと言いたいという方がたくさんいらっしゃると思います。また、機会がありましたら、主催者に関わらず、呼んでいただければ出てまいります。そして、国の考え方についてお話しできますので、是非活発なコミュニケーションができればと思っております。

聴講の方々も長い時間、ありがとうございました。今日の討論会の結果については、中部地方整備局、静岡県ホームページなどに掲載し、たくさんの方に見ていただくことで、そこからまた色々な反応が上がってくるかと思えます。

国土交通省になりましたが、地方ではまだ中部地方整備局と中部運輸局という組織があり、完全に一本化しておりません。しかし、一本化するための努力をしており、今日の会合も共催で行いました。また、中部運輸局のホームページからもリンクすればたどり着けるようなことをやろうとしております。

この議論の今後の活用方法としましては、いただいたご意見をまんなかビジョンのアウトカム目標、具体的な施策などに反映していく予定でございます。ただ、これはトータルとして反映することですので、温かく見守っていただきたいと思います。

これをもちまして本日の「まんなかビジョン討論会静岡市バージョン」を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。

以上